

真備地区の復旧・復興に向けた 取組状況について

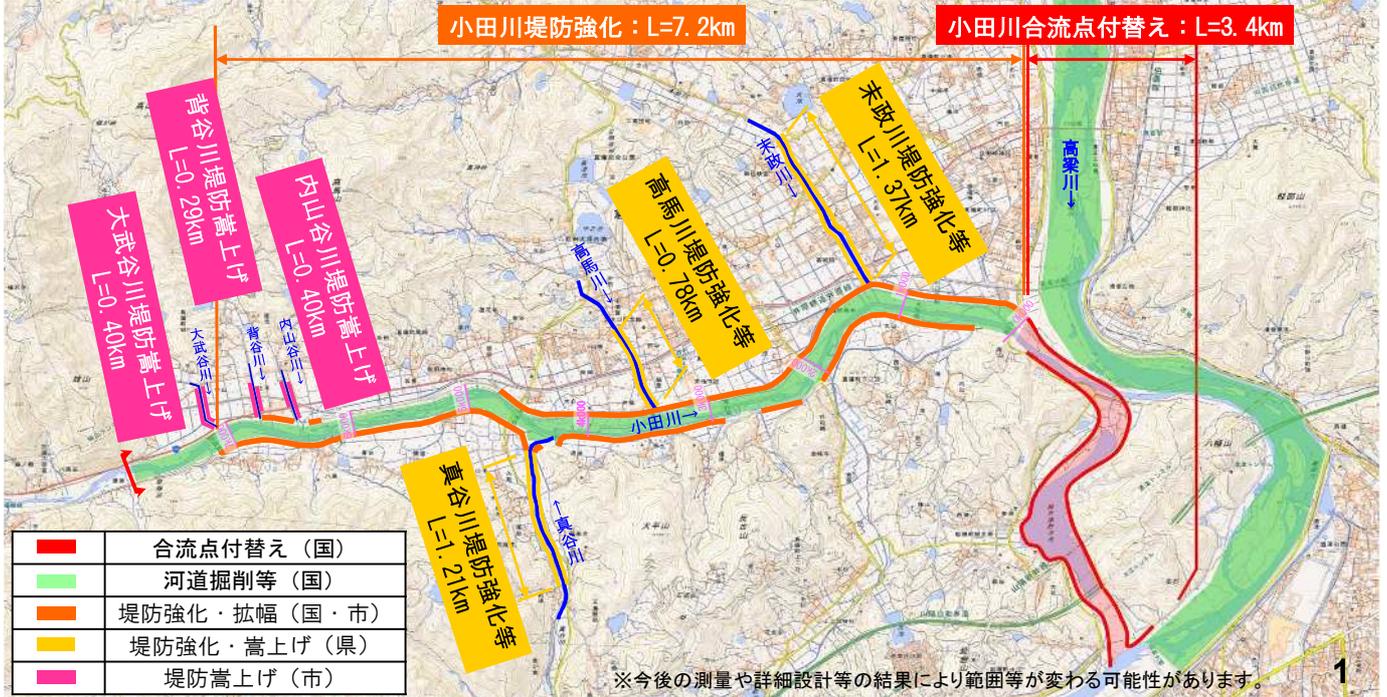
～ 目次 ～

1. 小田川及び支川における堤防強化等の
工事について(国・県・市) …p 1
2. 小田川合流点付替え事業の工事状況(国) …p 2
3. 小田川における堤防強化等の工事状況(国・市) …p 4
4. 末政川・高馬川・真谷川における
堤防強化等の進捗状況(県) …p 5
5. 有井橋架替工事に伴う橋梁部の
全面通行止めについて(県) …p 6
6. 国道486号陸閘解消の工事状況(県) …p 8
7. 大武谷川・背谷川・内山谷川における
堤防嵩上げの工事状況(市) …p 9
8. 小田川・高梁川の河道掘削の進捗状況(国) …p10
9. 高梁川の堤防強化の進捗状況(国) …p11
10. 復興防災公園(仮称)の整備(市) …p12
11. 復興防災公園(仮称)の整備イメージ(案) …p13

12. 小田川かわまちづくりの推進(国・市) …p14
13. 公共施設の復旧状況(市) …p15
14. 仮設住宅等の状況 …p18
15. 住宅支援(災害公営住宅の整備) …p19
16. 生活再建支援・見守り支援等 …p20
17. 中小企業, 農業者への支援 …p21
18. 避難情報の見直し・災害関連情報の提供 …p22
19. コロナ禍における避難所運営, 分散避難の取組 …p23
20. 指定避難所における備蓄物資の拡充 …p24
21. 自主防災組織への支援 …p25
22. 防災教育の推進 …p26
23. 流域治水の推進 …p27
24. 真備地区復興計画の推進について …p28

小田川及び支川における堤防強化等の工事について (国・県・市)

- 国・県・市の連携・協力により、小田川及び県管理河川（末政川，高馬川，真谷川），市管理河川（大武谷川，背谷川，内山谷川）において、小田川合流点付替え事業や重点的な堤防整備（堤防強化，堤防嵩上げ等）を行うとともに、高梁川・小田川の河道掘削等を実施



小田川合流点付替え事業の工事状況（国）

- 現在，南山の掘削（①）や柳井原貯水池掘削で発生した土砂や岩砕を有効活用した築堤を実施中（②，③）。また，柳井原貯水池下流の締切堤防上の道路を橋梁に付替えるための橋梁上部工（橋桁）の架設（④）を実施



【進捗率】 ※11月15日時点

設計	100%
用地・補償	100%
工事	51%

工事内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023
仮設工事	■					
掘削・築堤		■	■	■	■	■
貯水池河道整正			■	■	■	■
橋梁架設			■	■	■	■

下部工 上部工

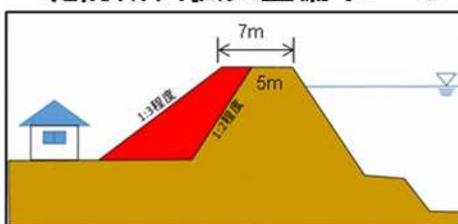


小田川における堤防強化等の工事状況 (国・市)

○ 小田川等の河道掘削で発生する土砂を有効活用し、国と市が連携・協力して堤防強化を実施。令和3年度末に一部区間を除き工事完了予定



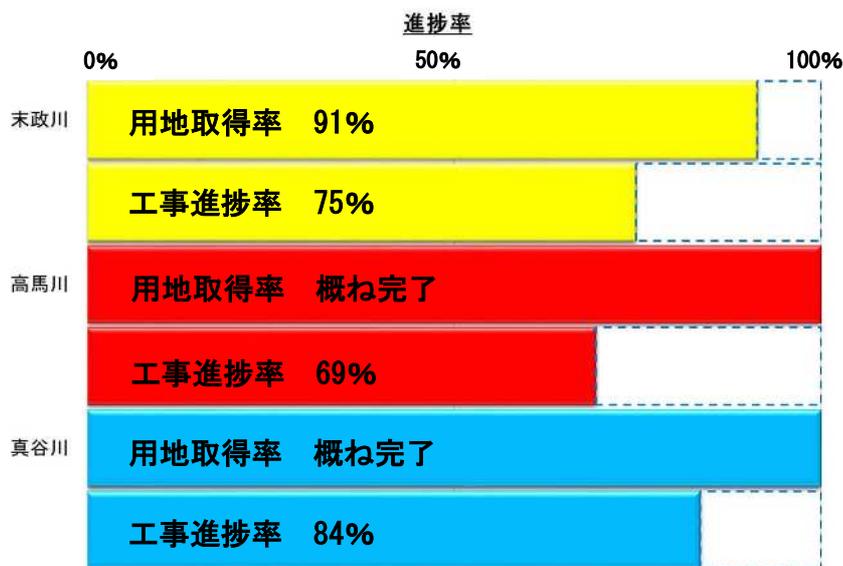
堤防断面拡大整備イメージ



【進捗率】 ※11月15日時点	
地元設計協議	100%
堤防・構造物設計	100%
用地調査	100%
用地補償	98%
堤防・構造物工事	27%

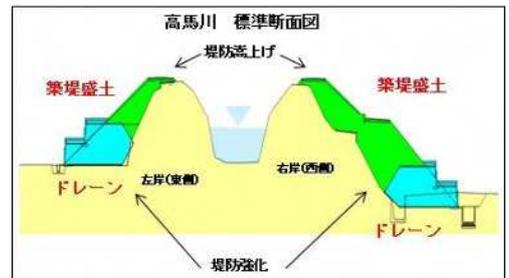
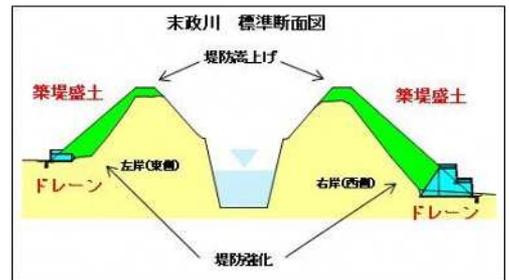
末政川・高馬川・真谷川における堤防強化等の進捗状況(県)

○ 県河川の堤防強化等を実施。令和5年度末に工事完了予定



(令和3年10月31日現在 岡山県公表資料より)

※進捗率は令和3年10月31日現在での集計であり、今後の調整や設計の確定及び工事発注等により変更となる場合があります



5

事業説明看板 (イメージ図)



有井橋リニューアル！ 令和5年4月完成予定



ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。



6

- 末政川堤防嵩上げ及び有井橋架替による陸閘の解消
- 令和3年4月から概ね2年間、有井橋を全面通行止め

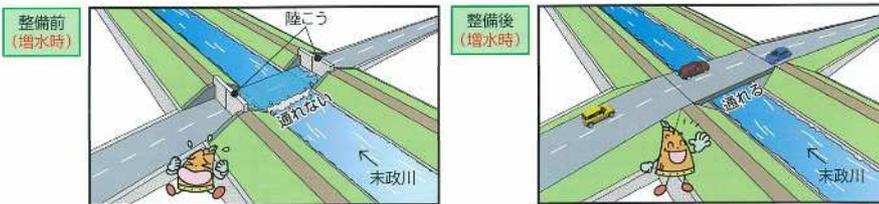
末政川・有井橋整備による効果

- ・ 有井橋を堤防より高い位置で架け替えるため、陸閘構造が解消され、増水時の流れが安全でスムーズになる
- ・ 堤防をふさぐ必要がなくなるため、増水時にも通行が可能になる（災害発生時の避難や緊急車両の通行も可能）

現在の状況

- ・ 橋梁下部工は10月中旬に場所打杭工を完了し、現在、橋台工を実施中
- ・ 取付道路工は盛土工、補強土壁工を実施中

整備イメージ



橋梁下部工施工状況 (有井橋)



場所打杭工施工状況 (有井橋左岸)



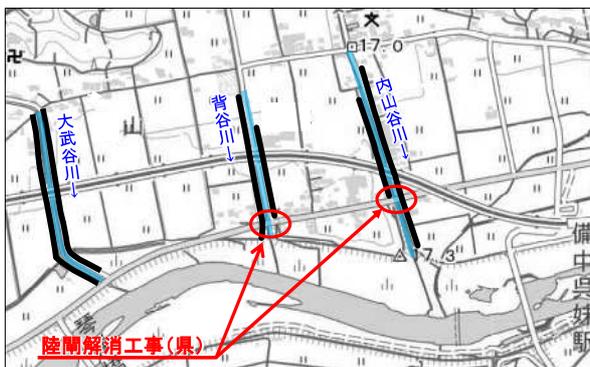
国道486号 陸閘解消の工事状況（県）

- 道路へ河川の水が流れ込まないようにする「防水擁壁」の設置工事が、令和3年6月に完了
- これにより、出水時の道路の全面通行止めを伴う陸閘設置が不要となった

防水擁壁の設置状況

- ・ 内山谷川、背谷川の計2箇所

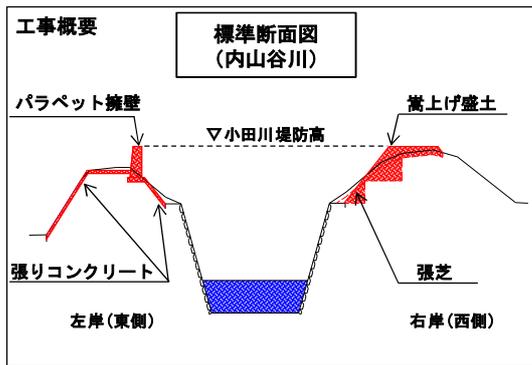
【位置図】



【施工後の状況（内山谷川）】



○ 小田川の背水影響を低減するための堤防かさ上げ工事を令和3年5月末に完了



小田川・高梁川の河道掘削の進捗状況(国)

○ 小田川・高梁川の河道を掘削し、水が流れる断面を拡大

	小田川	高梁川
期間	平成30年度から令和3年度まで	令和元年度から令和3年度まで
全体河道掘削量	308,000m ³ (25mプール約856杯)	620,000m ³ (予定) (25mプール約1,723杯) (古地地区 約175,000m ³ , 酒津地区 約392,000m ³ , 川辺橋下流付近 約53,000m ³)
河道掘削したボリューム	308,000m ³ (25mプール約856杯) ※令和3年6月10日完了	578,000m ³ (25mプール約1,606杯) ※令和3年10月末時点

※プール容積 25m×12m×1.2m



- 井原鉄道～川辺橋の区間（①）において、令和2年8月下旬より堤防強化工事に着手し、令和3年度末に築堤，鋼矢板，護岸工事完了予定。ドレーン工（水路整備含む），堤防道路の舗装は、令和4年度末完成予定（工事延長 約1,300m）
- 川辺橋～上流の区間（②）において、令和3年4月上旬より堤防強化工事に着手し、令和3年度末に築堤，護岸工事完了予定。ドレーン工，堤防道路の舗装は、令和4年度末完成予定（工事延長 約600m）

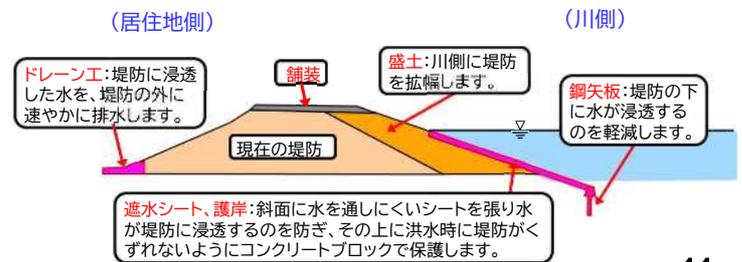


※工事実施範囲等は現地状況等により変更となる場合があります。

【堤防強化の整備状況】



【堤防強化のイメージ（井原鉄道～川辺橋の区間）



復興防災公園（仮称）の整備（市）

- 8月より盛土工事に着手。用水路整備工事を年内に完了予定
- 復興防災公園（仮称）実施設計等業務委託を実施し、令和5年度の完成を予定

公募型プロポーザル方式により、委託業者が決定

業務委託: オオバ・隈研吾建築都市設計事務所設計共同体



【合同記者発表】
令和3年11月21日

委託内容

1. 公園実施設計
 - ・面積: 約2.8ha
2. 建築基本・実施設計
 - ・建屋: 一時避難所, 防災倉庫, 便所等
 - ・構造: 木造 平屋建て, 延べ面積: 400㎡程度
3. 地質及び土質調査
 - ・ボーリング調査 2箇所

委託期間

令和3年11月～令和4年8月末

※検討は、ワークショップ等を開催し、住民の皆さまのご意見を伺いながら進めます 12



【令和3年10月撮影】

復興防災公園(仮称)の整備イメージ(案)

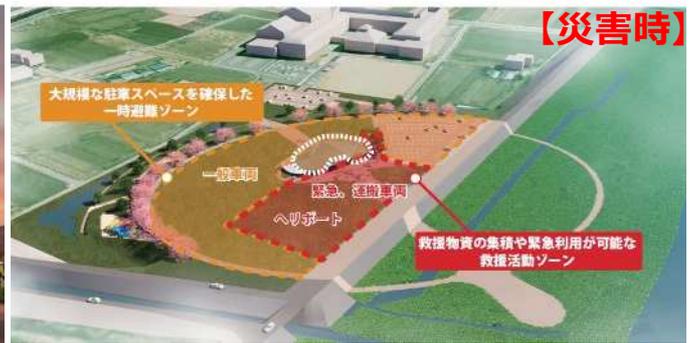
平常時と災害時の機能転換が可能な復興シンボルとなる希望の丘

様々なスケールの使い方を可能にする希望のミチ中心型の広場ネットワーク



真備のポテンシャルを活かした市民を迎える竹のゲート

十分な一時避難ゾーンの確保と、建屋と連携する救援活動ゾーン



※ 今後の設計により、イメージと異なる場合があります

小田川かわまちづくりの推進(国・市)

- 令和3年3月19日、国に「小田川かわまちづくり計画」を登録した
- 復興防災公園(仮称)を拠点に、サイクリングロードによる水辺のネットワークを形成し、地域資源や魅力ある水辺空間の利活用を促進



防災訓練



スポーツ



【一部完成に伴う一般開放の様子】有井・川辺地区(北側)

【今後の利活用イメージ】

※ 【かわまちづくり】

地域活性化のため、地域資源や魅力ある水辺空間を活用し、住民・民間事業者・河川管理者・市の連携のもと、賑わいのある水辺空間づくりを目指す取組

○ これまで敷地内の仮設園舎を利用していた「まきびの里保育園」では、園舎の復旧工事が完了し、**11月1日から新園舎での保育を再開**



外観



屋上は、浸水時の緊急避難場所として使用できるよう設計



まきびの里保育園の新園舎と子どもたち

仮設住宅等の状況

○ 現在も、220人の方々が市内外の仮設住宅に居住
ピーク時に8,780人であった入居者のうち、**97%以上の方々が再建済み**

入居等の状況

（令和3年10月末時点（真備地区における被災世帯））

建設型仮設住宅	11戸	26人
借上型仮設住宅	74戸	194人
公営住宅等（一時入居）	0戸	0人
応急修理の申込（R2年12月で完了）		1,033件
リバースモーゲージ型融資の申込		136件
住宅災害復旧等利子補給金の申込		539件

建設型仮設住宅の入居者数

【内訳】（令和3年10月末時点）

- ・二万（25戸）：入居2戸・5人
- ・真備総（80戸）：入居7戸・17人
- ・市場（53戸）：入居2戸・4人

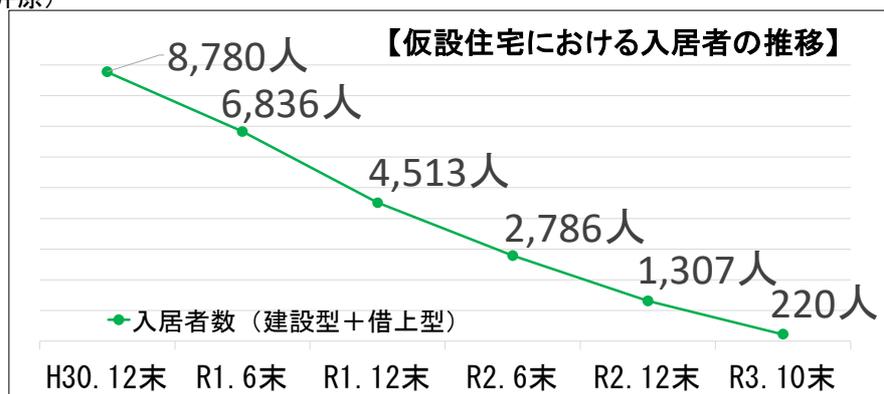
※閉鎖（令和3年9月末）

- ・柳井原（51戸）
- ・岡田（25戸）
- ・みその（32戸）

建設型仮設住宅の撤去状況（柳井原）



（令和3年10月11日撮影）



○ 災害公営住宅（3団地）が3月15日までに完成し、入居完了



【川辺団地】40戸



【有井団地】20戸



【箭田南団地】31戸



集会室（川辺団地）約60㎡



集会室外観（川辺団地）

<凡例>
 屋上一時避難場所

○ 仮設住宅の供与期間の再延長（令和4年7月5日まで）

・ 県が延長希望世帯に可否を順次通知しており、現在、**延長決定世帯は79世帯**

○ 真備地区の民間賃貸住宅の活用【倉敷市被災者向け民間賃貸住宅家賃助成事業】

・ 災害公営住宅に入居できない方に、最長15年間にわたり家賃を助成（全国で初）
 ⇒ 現在、**15世帯が入居**

19

生活再建支援・見守り支援等

被災者生活再建支援金

※令和3年10月末時点

○ 災害により居住する住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に対して支援金を支給

基礎支援金 **件数：5,447世帯**

加算支援金 **件数：4,590世帯**

（申請期限）基礎支援金 令和3年8月4日（終了）、加算支援金 令和4年8月4日

被災者見守り・相談支援等事業

※令和3年10月末時点

○ 「倉敷市真備支え合いセンター」が、現在、以下の取組を実施

訪問世帯数：延べ約45,200世帯

※仮設住宅の入居者をはじめ、**約250世帯に定期的な訪問を実施**

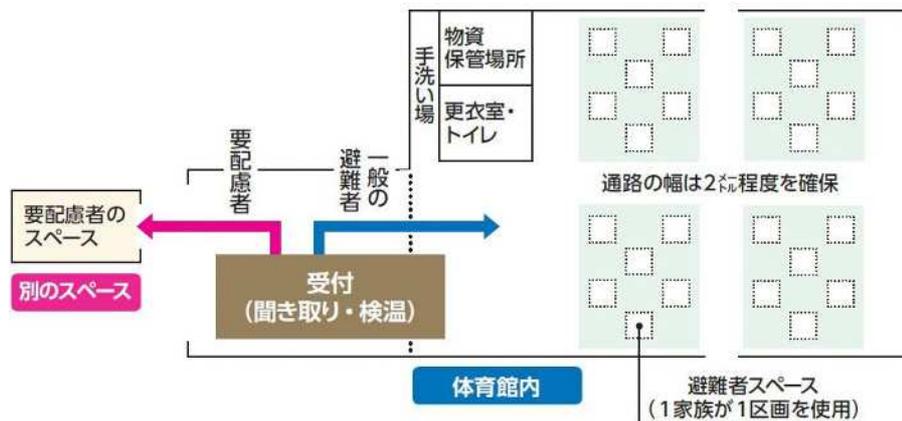
- ・ 仮設住宅等の個別訪問を行い、見守りや生活上の困りごと等の傾聴・支援機関への繋ぎ
- ・ 個別支援会議等による、複合的課題を抱える世帯の生活再建に向けた、多機関連携型の支援

（設置場所：真備保健福祉会館（真備支所の隣）
 職員数：約20人
 ※倉敷市社会福祉協議会に委託

20

- 指定避難所では、避難者の問診及び検温を行い体調不良者を判別するほか、消毒の徹底、テントや間仕切り等を活用して世帯ごとの避難スペース及び通路幅を広くするなどの感染症対策を実施
- 親戚・知人宅への避難、2階以上への垂直避難（※1）、車で運動公園などに避難する車中避難（※2）など、分散避難を推進

＜感染症対策を考慮した避難所配置例＞



※1 2階以上への垂直避難



※2 車中避難

- ・今年度の指定避難所の開設状況（真備地区）
令和3年8月13日（金）18時
市内の山沿いを対象に、高齢者等避難【警戒レベル3】発令
⇒ 岡田小学校、藪小学校、二万小学校、呉妹小学校の4箇所を開設

指定避難所における備蓄物資の拡充

- 指定避難所となっている小学校63校、中学校26校、公民館33館に屋外備蓄保管庫を新たに設置
- 物資は避難者50人が2日程度避難する想定で備蓄。（3日目以降については、国・県及び支援団体からの支援物資を活用する想定）



真備地区

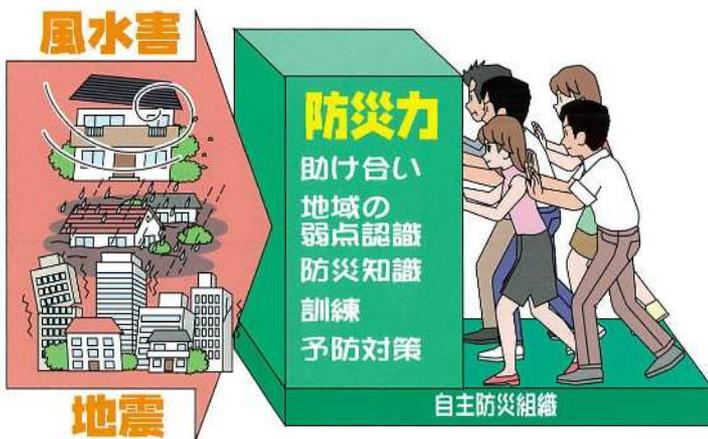
- ・小学校 6校
- ・中学校 2校
- ・公民館 1館
- ・公民館分館 6館

※高校、支援学校はR4年度設置予定

【主な備蓄物資】

敷マット、毛布、飲料水、乾パン、アルファ米、発電機、投光器、トイレットペーパー、タオル、簡易トイレ・テント、延長コードなど

○ 地域防災力の向上を目指して、町内や地域で、いざという時にお互いに助け合うため、日頃から防災活動に取り組む**自主防災組織の活動が重要**



自主防災組織の設立数 ※R3.9.30時点
市全体 485組織(うち**真備地区 49組織**)

出前講座等の支援【市全体】 ※令和2年度
出前講座 38回 (1,761人)
訓練参加 4回 (540人)
その他(イベントなど) 3回 (190人)

組織結成に伴う支給資材 ※世帯数に応じて
緊急告知FMラジオ, 防滴型拡声器,
ライト, 担架, 一輪車, ブルーシート 等

防災士の育成支援 ※令和2年度
防災士育成講座 7回(341人)

どんな活動をするの？

- 情報収集や近所同士での避難の声掛け
- 出火防止・初期消火
- 避難誘導・避難所の運営

災害時



- 防災知識の普及・啓発
- 地域の災害危険箇所の把握
- 防災訓練
- 家庭の安全点検
- 防災資機材等の整備
- 避難行動要支援者対策など

平常時



防災教育の推進（市教育委員会の取組）

○ 倉敷市の地域性を反映することや、**児童生徒が災害に対して「わがこと意識」を高め、「自助」「共助」の姿勢をもつこと**を重点とした防災教育を推進

【新たな取組】

- ・ 小学3年生, 5年生に新たに3時間の防災学習（総合的な学習の時間）を追加し、全ての学校で共通した内容を指導
- ・ 防災教育の視点を盛り込んだ小学3, 4年生社会科副読本作成支援
- ・ マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」, 倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップの市内全小学校への配付など
- ・ 中学2年生の新たな防災学習（総合的な学習の時間）追加に向けてのモデル授業の実施



(マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用した学習)



(防災安全マップ作成のためのフィールドワーク資料)



(小学校社会科副読本)



(「自助」だけでなく「共助」の姿勢をもつための中学校でのモデル授業)

- 気候変動を踏まえた水災害対策に向けて、**河川流域の全ての関係者が協働して流域全体で行う治水対策である「流域治水」の推進**
- 高梁川水系では、令和3年3月に「高梁川水系流域治水プロジェクト」を策定公表
- ハード・ソフト一体となった事前防災対策をより一層加速化



主な取組み

◆ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・農業用排水機を活用した予備排水
- ・用水路の事前水位低下による雨水貯留
- ・透水性舗装を用いた歩道整備 等

◆ 被害対象を減少させるための対策

- ・水害リスクを考慮したまちづくりの推進
- ・浸水に強い住宅の建て方等の普及促進 等

◆ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・小学生を対象とした防災教育の実施
- ・防災活動における拠点施設の整備
- ・SNSや防災ポータルによる情報発信 等

真備地区復興計画の推進について

真備地区復興計画の改定

- 住民の皆様等の御意見を反映しながら、毎年度、復興の段階に応じた取組の見直しを実施

復興懇談会の開催

- ・復興計画に基づく取組の進捗状況の説明や、今後の復興に向けた御意見を伺うため、真備地区の住民等を対象とした復興懇談会を開催（11月7日）

真備地区復興計画推進委員会の開催

- ・取組に対する進捗状況や、復興の段階に応じた新たな取組に対する御意見を伺うため、真備地区復興計画推進委員会を開催（11月29日）

スケジュール（案）

	R3年8月	R3年9月	R3年10月	R3年11月	R3年12月	R4年1月	R4年2月	R4年3月
復興懇談会				●				
真備地区復興計画推進委員会				●				
真備地区復興計画の改定	← 取組の見直し・新たな取り組みの検討				← 見直し計画(案)の作成		見直し計画の作成	●